

2021 (令和3年) 1/22 金曜日

小学生新聞

MAINICHI

発行所 毎日新聞東京本社
〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1

配達お問い合わせ
購読お申し込み

0120-468-012
(6-21時、一部地域は平日10-18時)



定価 1か月1750円(本体1620円、消費税130円)・1部70円

毎日小学生新聞編集部
郵便 〒100-8051 (住所不要)
ファクス 03-3212-2591 電話03-3212-0321
メール maishou@mainichi.co.jp

視覚障害者は情報障害者

私の感想

思いやり

最後に、「障害者もあきらめな
い」と書きましたが、周りの人の思
いやりも大切です。
佐木さんも、取材先で色んな人
達と教えてもらったし、ながら行くそ
うです。
思いやりを持って接してほしい
ですね。

五感とは?

① 聴覚

② 味覚

③ 嗅覚

④ 視覚

⑤ 触覚

8割

「伝えたい」
全もうの記者佐木さん
人間が必要な情報をえる約8割は
目である。そのため、視覚障害者は
情報障害者ともよばれる。しかし、不便
自由な事はわりとは限らない。点字新
聞のイベントで、新聞記者の佐木さんか
心境を語ってくれた。

私は、二月二十二日毎日
記者体験点字新聞ソ
アというオンラインイ
ントに参加しました。そ
の中で佐木さんの話が
一番印象に残りまし
た。
佐木さんは、幼い頃か
らほとんど目が見え
ず、高校生で完全に
目が見えなくなしま
した。ですが、逆に目
見えな事も生かして、
点字新聞記者になり
ました。佐木さんは、い
ゆる情報障害者とし
て、そんな佐木さんが
記者としてどんなふう
なのか語ってくれました。
「私は新聞記者にな
ろうとは思っていません
が、そうやってなろうと
思いました。新聞社の
使命とは点字毎日
新聞発行の意義です。
そのために、私たちは働
いているのです。
どのように作られるか

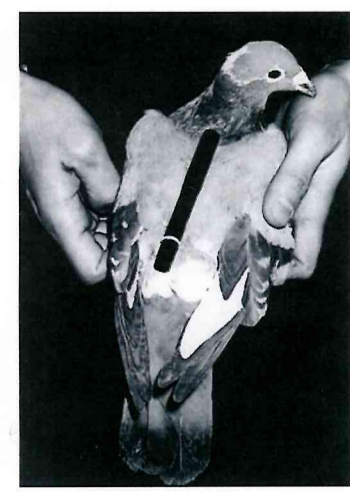
と、よく記者が取材
した内容を点字で打
ちこむ。次に、私のよう
な情報障害者たちが
読めるとか確認し
てくわへまわします」
コップラウチのように、
私が中学裏の時にく
われば、便利なグッズが
増えたと思います。
この新聞は、またこの
ニュースを聞いた事の
ない人に伝えるもので
す。
こう語ってくれました。
佐木さんは情報障害
者にも関わらず、ハ
の大事事をもてのけて
います。
全国の視覚障害者
の方も佐木さんのよう
にあきらめないうほ
しいです。
私もあきらめな
い気持ちを持ち続
けたいです。
【吉川博翔】

伝書鳩の思いなるほドリへ

毎日新聞東京本社には、緑豊かな
皇居のほりにある。本社が入るパ
レスサイドビル(東京都千代田区
二ツ橋)の屋上には、6羽のハト
の像が置かれている。ビル設計者
からの依頼で制作されたというが、
なぜハトの像なのか。
今のように交通や通信が発達して
いなかった100年ほど前、「伝書鳩」
は新聞社にとって重要な通信方法

だった。「伝書鳩」はハトの帰巣本
能を活用。東京の各新聞社では100
羽以上のハトを屋上で飼っていた。
取材現場から原稿を送るときは、
ハトを数羽つれていったという。記
者は通信用のうすい紙に記事を書
き、長さ4センチほどの筒に入れてハ
トの足につけて放った。写真フィル
ムは長さ10センチほどの筒に入れ背
中にゴムバンドで背負わせた。ハトが

新聞社にもどるとハト係が記事や
写真を担当に渡した。ハトたちは原
稿やフィルムを何百枚も運んだ。
ハトには成績表がつけられ、成
績が優秀なハトほど出勤回数が多
かった。成績が悪かったハトは、運
動会を盛り上げるためにくす玉から
飛び出す役をつとめたという。
毎日新聞では、東京オリンピック
の次の年(1965年)まで大活躍し
た。「なるほドリ」の尊敬するトリ
は伝書鳩。ハトたちのがんばりは今
も受け継がれている。



背中に写真フィルムをいれる筒を背負った伝書鳩。原稿は筒の中に入れて、新聞社に戻る時、タカに襲われる危険があり、複数の伝書鳩が同じ原稿を運んだ